

警察月報

隆熙二年八月十五日
第一號

○條 約

日韓協約
在韓國日本臣民ニ對スル警察事務執行ニ關スル協定

○法 令

各部官制通則
警視廳官制
地方官々制
遞查給與令
遞查採用規則
遞查給與品及貨與品規則
遞查懲罰令

○例 規

韓人遞查ノ任免ハ各道ニ於テ履行スヘキ件

內陸	內陸	內陸	內陸	內陸	內陸	內陸	內陸	內陸	內陸	內陸	內陸	內陸	內陸	內陸
警	警	警	警	警	警	警	警	警	警	警	警	警	警	警
令	令	令	令	令	令	令	令	令	令	令	令	令	令	令
第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第
一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五
號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號

置此段同答及及此會也
福井縣同答明治三十八年三月六日
五月二十七日

389

388

387

92

109

警察官署門標様式ノ件
 賄料支給規則
 逕査令宅科支給規則
 逕査特別手當支給規則
 逕査給與品中代料ヲ以テ支給スル品目ノ件
 警察官署及警察署長分署長並監視警部印章様式ノ件
 逕査給與令第一條ニ依ル日本人逕査月手當額ノ件
 理事官ハ日本人ニ對シ警察上緊急ヲ要スル場合ニ直接逕査ヲ指揮スルノ件
 日本人ニ對スル警察事務執行ニ關シ注意ノ件
 警察官服裝ノ件
 ○雜 錄
 警察部長會議
 内部大臣訓示ノ要旨
 内部次官訓示ノ要旨
 内部警務局長訓示ノ要旨
 殉職警察官ノ遺族ニ吊慰金下賜
 暴徒鎮壓ニ從事シタル警察官諸氏ノ殉職狀況
 警官練習所ノ設置
 警察月報ニ關スル事項

警察官署門標様式ノ件	內務大臣訓令第一〇一號	一月
賄料支給規則	內務大臣訓令第一〇二號	一月
逕査令宅科支給規則	內務大臣訓令第一〇三號	一月
逕査特別手當支給規則	內務大臣訓令第一〇四號	一月
逕査給與品中代料ヲ以テ支給スル品目ノ件	內務大臣訓令第一〇五號	一月
警察官署及警察署長分署長並監視警部印章様式ノ件	內務大臣訓令第一〇六號	一月
逕査給與令第一條ニ依ル日本人逕査月手當額ノ件	內務大臣訓令第一〇七號	一月
理事官ハ日本人ニ對シ警察上緊急ヲ要スル場合ニ直接逕査ヲ指揮スルノ件	內務大臣訓令第一〇八號	一月
日本人ニ對スル警察事務執行ニ關シ注意ノ件	內務大臣訓令第一〇九號	一月
警察官服裝ノ件	內務大臣訓令第一一〇號	一月
○雜 錄		
警察部長會議		
内部大臣訓示ノ要旨		
内部次官訓示ノ要旨		
内部警務局長訓示ノ要旨		
殉職警察官ノ遺族ニ吊慰金下賜		
暴徒鎮壓ニ從事シタル警察官諸氏ノ殉職狀況		
警官練習所ノ設置		
警察月報ニ關スル事項		

一一三二一 九八八 七六五四三二一

○條 約

●日韓協約(光武九年十一月十七日調印)

日本國政府及韓國政府ハ兩帝國ヲ結合スル利害共通ノ主義ヲ鞏固ナラシメンコトヲ欲シ韓國ノ富強ノ實ヲ認ムル時ニ至ル迄此目的ヲ以テ左ノ條款ヲ約定セリ

第一條 日本政府ハ在東京外務省ニ由リ今後韓國ノ外國ニ對スル關係及事務ヲ監理指揮スヘク日本國ノ外交代表者及領事ハ外國ニ於ケル韓國ノ臣民及利益ヲ保護スヘシ

第二條 日本國政府ハ韓國ト他國トノ間ニ現存スル條約ノ實行ヲ全フスルノ任ニ當リ韓國政府ハ今後日本國政府ノ仲介ニ由ラスシテ國際的性質ヲ有スル何等ノ條約若ハ約束ヲナササルコトヲ約ス

第三條 日本國政府ハ其代表者トシテ韓國皇帝陛下ノ閣下ニ一名ノ統監ヲ置ク統監ハ專ラ外交ニ關スル事項ヲ管理スル爲メ京城ニ駐在シ親シク韓國皇帝陛下ニ内調スルノ權利ヲ有ス日本國政府ハ又韓國ノ各開港場及其他日本國政府ノ必要ト認ムル地ニ理事官ヲ置ク權利ヲ有ス日本國政府ハ統監ノ指揮ノ下ニ從來在韓國日本領事ニ屬シタル一切ノ職權ヲ執行シ並本協約ノ條款ヲ完全ニ實行スル爲メ必要トスヘキ一切ノ事務ヲ掌理スヘシ

第四條 日本國ト韓國トノ間ニ現存スル條約及約束ハ本協約ノ條款ニ抵觸セサル限總テ其効力ヲ繼續スルモノトス

第五條 日本國政府ハ韓國皇室ノ安寧ト尊嚴ヲ維持スルコトヲ保證ス

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ相當ノ委任ヲ受ケ本協約ニ記名調印スルモノナリ

光武九年十一月十七日 外務大臣 朴 齊 純 印
 明治三十八年十一月十七日 特命全權公使 林 權 助 印



●日韓協約(光武十一年七月二十四日調印)

- 第一條 日本國政府及韓國政府ハ速ニ韓國ノ富強ヲ圖リ韓國ノ幸福ヲ增進スル目的ニテ左開條款ヲ約定ス
- 第二條 韓國政府ハ施設改善ニ關シ統監ノ指導ヲ受クルコト
- 第三條 韓國政府ハ法令ノ制定及重要ナル行政上ノ處分ハ豫メ統監ノ承認ヲ經ルコト
- 第四條 韓國ノ司法事務ト普通行政事務トハ之ヲ區別スルコト
- 第五條 韓國ノ高等官吏ノ任命ハ統監ノ同意ヲ得テ之ヲ行フコト
- 第六條 韓國政府ハ統監ノ推薦スル日本人ヲ韓國官吏ニ任命スルコト
- 第七條 韓國政府ハ統監ノ同意ヲ得テ外國人ヲ僱用スルコト

光武十一年七月二十四日
明治四十年七月二十四日

内閣總理大臣 李 完 用 印
統監 侯爵 伊 藤 博文 印

●在韓國日本臣民ニ對スル警察事務執行ニ關スル協定(光武十一年十一月一日官報號外)
在韓國日本臣民ニ對スル警察事務執行ニ關シ韓國政府ト統監府ハ如左協定ス

韓國政府及統監府ハ日本國政府カ明治四十年七月二十四日ニ締結セシ日韓協約第五條ニ依リ任命シタル韓國警察官ヲ以テ當該日本官憲ノ指揮監督ヲ受ケ在韓國日本臣民ニ對スル警察事務ヲ執行セシムル事ヲ約定ス
光武十一年十月二十九日
明治四十年十月二十九日
内閣總理大臣 李 完 用 印
統監 公爵 伊 藤 博文 印

○法令

●各部官制通則(隆熙元年十二月十三日勅令第三十六號)

- 第一條 本則ハ內務度支部軍部法部學部及農商工部ニ適用ス
- 第二條 各部大臣ハ主任事務ニ對シテハ其責ニ任ス主任ノ明瞭ナラサル事務ニシテ兩部以上ニ關涉スルモノアル時ハ內閣ニ提出シテ其主任ヲ定ム
- 第三條 各部大臣ハ主任事務ニ對シテ法律勅令ノ制定廢止及改正ヲ要スル時ハ案ヲ具シテ內閣ニ提出ス
- 第四條 各部大臣ハ主任事務ニ對シテ法律勅令ノ範圍内ニ於テ部令ヲ發スルコトヲ得
- 第五條 各部大臣ハ主任事務ニ對シテ其職權ノ範圍内ニ於テ警視總監及地方長官ニ指令又ハ訓令ヲ發スルコトヲ得
- 第六條 各部大臣ハ主任事務ニ對シテ警視總監及地方長官ヲ監督ス
- 第七條 各部大臣ハ警視總監及地方長官ノ命令又ハ處分ニシテ成規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ侵犯スルモノアリト認ムル時ハ其命令又ハ處分ヲ停止シ若ハ取消スコトヲ得
- 第八條 各部大臣ハ所屬官吏ヲ統督シ委任官ノ進退ハ內閣總理大臣ヲ經テ上奏シ判任官以下ハ專行ス但郡守ノ進退ハ觀察使ノ稟申ニ依ル(隆熙二年六月勅令第三十四號ヲ以テ追加)
- 第九條 各部大臣官房ヲ置ク
- 第十條 大臣官房ニ於テハ左開事務ヲ掌ル
- 一 機密ニ關スル事項
- 二 官吏進退身分ニ關スル事項

法令

三 大臣官印及部印ノ管守ニ關スル事項
 四 文書接受發送翻譯編纂及保存ニ關スル事項
 五 統計及報告ニ關スル事項
 六 所管經費及諸收入ノ預算決算並會計ニ關スル事項
 七 會計監査ニ關スル事項
 八 所管官有財産及物品ニ關スル事項
 九 其他各部官制ニ依リ特ニ大臣官房所掌ニ屬セシムル事項
 第十條 各部ニ局ヲ置ク其分掌事務ハ各部官制ニ於テ定ム
 第十一條 大臣官房及各局ノ分課ハ各部大臣ノ定ムル所ニ依ル
 第十二條 各部ニ左開職員ヲ置ク

次官	一人	勅任
局長	一人	勅任或奏任
秘書官	一人	奏任
書記官	一人	奏任
事務官	一人	奏任
翻譯官	一人	奏任
主事	一人	奏任

軍部ニハ書記官及事務官ヲ置カス
 第十三條 局長ハ大臣及次官ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌理ス

第十四條 秘書官ハ大臣及次官ノ命ヲ承ケ機密事務ヲ掌リ又ハ臨時命ヲ承ケ各局課ノ事務ヲ助ク
 第十五條 書記官及事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ大臣官房及各局ノ事務ヲ掌ル
 第十六條 翻譯官ハ上官ノ指揮ヲ受ケ翻譯ヲ掌ル
 第十七條 主事ハ上官ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ從事ス
 第十八條 各部奏判任官ノ定員ハ本則ニ定ムルモノノ外各部官制ニ於テ定ム
 第十九條 本則ニ掲ケタルモノノ外特別ノ職員ヲ置クコトヲ要スル時ハ各部官制ニ於テ定ム

附 則
 第二十條 本令ハ陸照二年一月一日ヨリ施行ス
 第二十一條 光武十一年勅令第四十一號各部官制通則ハ廢止ス

● 内部官制 (陸照元年十二月十三日勅令第三十七號)
 第一條 内部大臣ハ地方行政警察土木陸上運輸電氣衛生地理宗教出版戶籍移民及救恤ニ關スル事務ヲ管理シ警視總監及地方長官ヲ監督ス
 第二條 大臣官房ニ於テハ各部官制通則ニ掲載シタルモノノ外褒賞ニ關スル事務ヲ掌ル
 第三條 内部ニ左開四局ヲ置ク
 地方局
 警務局
 土木局
 衛生局
 第四條 地方局ニ於テハ左開事務ヲ掌ル

- 一 地方行政ニ關スル事項
二 救恤及慈善事業ニ關スル事項
三 夫役及徴發ニ關スル事項
四 地理及地籍ニ關スル事項
五 宗教及神社寺ニ關スル事項
第五條 警務局ニ於テハ左開事務ヲ掌ル
一 行政警察ニ關スル事項
二 高等警察ニ關スル事項
三 圖書出版物及著作ニ關スル事項
四 戸口及民籍ニ關スル事項
五 移民ニ關スル事項
第六條 土木局ニ於テハ左開事務ヲ掌ル
一 本部直轄土木工事ニ關スル事項
二 地方土木工事ニ關スル事項
三 道路、上水(飲料水)下水(溝渠)ニ關スル事項
四 河川港灣砂防及灌漑事業ニ關スル事項
五 水面ノ埋築及使用ニ關スル事項
六 土地收用ニ關スル事項
七 鐵道軌道及電氣ニ關スル事項
第七條 衛生局ニ於テハ左開事務ヲ掌ル

- 一 傳染病豫防種痘其他公衆衛生ニ關スル事項
二 醫師及藥劑師ノ業務并藥品及賣藥ノ監察ニ關スル事項
三 病院及衛生會ニ關スル事項
第八條 內務書記官ハ專任十二人トス
第九條 內務事務官ハ專任五人トス
第十條 內務ニ警視專任五人ヲ置ク奏任トス警視ハ上官ノ命令ヲ承ケ警察ニ關スル事務ヲ掌ル
第十一條 內務ニ技師專任一人技師專任四人ヲ置ク
技師ハ勅任、技師ハ勅任或ハ奏任トシ上官ノ命令ヲ承ケ技術ヲ掌ル
第十二條 內務繕寫官ハ專任三人トス
第十三條 內務主事ハ專任六十二人トス
第十四條 內務ニ警部專任十人ヲ置ク判任トス
警部ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察ニ關スル事務ニ從事ス
第十五條 內務ニ技手專任五人ヲ置ク判任トス
技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス
第十六條 內務ニ巡查ヲ置ク判任官待遇トス
巡查ニ關スル規程ハ內務大臣之ヲ定ム
第十七條 內務大臣ハ必要ニ應ジ地方ニ土木出張所ヲ置キ土木工事ニ關スル事務ヲ分掌セシムルコトヲ得
內務大臣ハ前項ノ事務ヲ處理セシムル爲メ工事費算範圍内ニ於テ臨時ニ事務官技師主事技手ヲ増量スルコトヲ得

附 則

第十八條 本令ハ隆熙二年一月一日ヨリ施行ス
第十九條 光武十年勅令第十五號内部官制同年勅令第十九號治道局官制及同年勅令第二十一號水運局官制ハ并廢止ス

●警視廳官制(隆熙元年十二月十三日勅令第三十九號)

第一條 警視廳ニ左開職員ヲ置ク(隆熙二年七月勅令第四十八號ヲ以テ改正)

警視總監 一人 勅任或ハ奏任

警視副監 一人 奏任

警 視 專任十人 奏任或ハ奏任

警 察 專任二人 奏任或ハ奏任

警 部 專任六十人 判任

第二條 警視總監ハ内部大臣ノ指揮監督ヲ承ケ皇宮、漢城府ニ在ル警察消防及衛生事務ヲ掌理シ各部主務ニ關スル警察事務ニ對シテハ各部大臣ノ指揮監督ヲ承ク(隆熙二年七月勅令第四十八號ヲ以テ修正)

第三條 警視總監ハ管内警察事務ニ關シ職權範圍内ニ於テ勅令ヲ發スルコトヲ得

第四條 警視總監ハ部下官吏ヲ指揮監督シ高等官ノ賞罰ハ内部大臣ニ具報シ判任官以下ノ進退ハ專行ス

第五條 警視總監ハ警察署長、警察分署長ノ處分又ハ命令ニシテ成規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ侵犯スルモノアリト認ムル時ハ其處分命令ヲ取消シ或ハ停止スルコトヲ得

第六條 警視總監ハ内部大臣ノ認許ヲ得テ分課規程ヲ設クルコトヲ得

第七條 警視副監ハ警視總監ヲ補佐シ警視總監事故アル時ハ其職務ヲ代辦ス

第八條 警視總監、警視副監共ニ事故アル時ハ首席警視其職務ヲ代辦ス

第九條 警部ハ上官ノ命ヲ承ケ職務ヲ掌リ部下官吏ヲ指揮監督ス

第十條 警察醫ハ上官ノ命ヲ承ケ衛生警察事務ニ從事ス

第十一條 漢城府ニ警察署及警察分署ヲ置ク其位置及管轄區域ハ内部大臣之ヲ定ム(隆熙二年七月勅令第四十八號ヲ以テ修正)

第十二條 警察署長ハ警視又ハ警部警察分署長ハ警部ヲ以テ充ツ

第十三條 警察署長及警察分署長ハ上官ノ命ヲ承ケ職務ヲ掌理シ部下ヲ指揮監督ス

第十四條 警視廳ニ巡查ヲ置ク判任官待遇トス

第十五條 巡查ニ關スル規定ハ内部大臣之ヲ定ム

第十六條 内部大臣ハ必要ニ應ジ預算範圍内ニ於テ警視廳ニ技師、繙譯官、技手及繙譯官補ヲ置クコトヲ得

第十七條 技師及繙譯官ハ奏任技手及繙譯官補ハ判任トス

附 則

第十五條 本令ハ隆熙二年一月一日ヨリ施行ス

第十六條 光武十年勅令第八號警視廳官制ハ廢止ス

●地方官々制(隆熙元年十二月十三日勅令第四十號)
第一條 各道ニ左開職員ヲ置ク(隆熙二年七月勅令第四十九號ヲ以テ改正)

觀察使 各道一人 勅任

書記官 各道一人 奏任
 警視 各道專任一人 奏任
 事務官 各道專任一人 奏任
 主事 各道專任一人 判任
 警部 判任

第二條 警視ハ各道ヲ通シテ三十一人ヲ定員トス
 第三條 主事ハ各道ヲ通シテ七十人トシ警部ハ各道ヲ通シテ一百六十二人トス(昭和二年七月勅令第四十九號ヲ以テ修正)
 各道ニ置ク主事及警部ノ定員ハ内部大臣之ヲ定ム
 第四條 觀察使ハ内部大臣ノ指揮監督ヲ承ケ各部ノ主務ニ對シテハ各部大臣ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ管内行政事務ヲ整理シ所屬官吏ヲ指揮監督ス
 第五條 觀察使ハ道府郡主事(日本人主事タルモノヲ除ク)ノ進退ヲ專行ス但道府主事ノ進退ハ府尹、郡守ノ稟申ニ依ル(昭和二年六月勅令第三十七號ヲ以テ修正)
 第六條 觀察使ハ管内行政事務ニ關シ職權範圍内ニ於テ道令ヲ發スルコトヲ得
 第七條 觀察使ハ府尹郡守警察署長及警察分署長ノ處分又ハ命令ニシテ成規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ侵犯スルモノアリト認ムル時ハ其處分又ハ命令ヲ取消シ若クハ停止スルコトヲ得(昭和二年七月勅令第四十九號ヲ以テ修正)
 第八條 觀察使事故アル時ハ首席高等官其ノ職務ヲ代辦ス(昭和二年七月勅令第四十九號ヲ以テ修正)
 第九條 觀察使ハ道ノ官吏ヲシテ其事務ノ一部ヲ臨時代辦セシムルコトヲ得
 第十條 觀察使ハ其職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ府尹郡守或ハ警察署長ニ委任スルコトヲ得
 第十一條 各道ニ内務部及警察部ヲ置キ左ノ事務ヲ分掌セシム(昭和二年七月勅令第四十九號ヲ以テ修正)
 内務部

一 地方行政ニ關スル事項
 二 救恤及慈善ニ關スル事項
 三 享祭ニ關スル事項
 四 宗教及神社寺ニ關スル事項
 五 土木ニ關スル事項
 六 地籍及土地收用ニ關スル事項
 七 教育學藝ニ關スル事項
 八 勸業ニ關スル事項
 九 外國人ニ關スル事項

警察部

一 警察ニ關スル事項
 二 衛生ニ關スル事項
 三 民籍ニ關スル事項
 四 移民ニ關スル事項
 第十二條 内務部長ハ書記官、警察部長ハ警視ヲ以テ之ニ充ツ觀察使ヲ保佐シ部下ノ官吏ヲ指揮監督シ所部ノ事務ヲ掌理ス
 第十三條 事務官ハ觀察使及書記官ノ命ヲ承ケ道務ヲ掌理ス
 第十四條 各道ニ警察署ヲ置ク其ノ位置及管轄區域ハ内部大臣之ヲ定ム
 警察署長ハ警視又ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ命ヲ承ケ警察事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

第十五條 警視ハ上官ノ命ヲ承ケ警察事務ヲ掌リ部下ヲ指揮監督ス
 第十六條 道主事ハ上官ノ指揮ヲ承ケ職務ニ従事ス
 第十七條 警部ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察事務ニ従事シ部下ヲ指揮監督ス
 第十八條 内部大臣ハ警察署下ニ警察分署ヲ置クコトヲ得其位置及管轄區域ハ内部大臣之ヲ定ム
 警察分署長ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ指揮ヲ承ケ職務ヲ掌理シ部下ヲ指揮監督ス
 第十九條 警察署長又ハ警察分署長事故アル時ハ觀察使ニ於テ道内官吏ヲシテ其職務ヲ代辦セシム
 第二十條 各道ニ巡查ヲ置ク判任官待遇トス
 巡查ニ關スル規程ハ内部大臣之ヲ定ム
 第二十一條 内部大臣ハ其係給豫算範圍内ニ於テ各道ニ技手警察醫ヲ置クコトヲ得
 技手及警察醫ハ判任トス
 第二十二條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ従事ス
 第二十三條 警察醫ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察ニ關スル醫務ニ従事ス
 第二十四條 各府郡ニ左開職員ヲ置ク
 府尹 各府一人 勅任或ハ奏任
 郡守 各郡一人 奏任
 主事 判任
 第二十五條 府尹及郡守ハ觀察使ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ管内行政事務ヲ掌理シ部下官吏ヲ監督ス
 第二十六條 府尹及郡守ハ外國人ニ關スル事件ニ就キ理事官ニ交渉スルコトヲ得
 第二十七條 内部大臣ニ於テ必要ト認メタル時ハ府或ハ郡ニ事務官一人ヲ置ク奏任トス

事務官ハ府尹或ハ郡守ヲ補佐シ事務ヲ掌理ス
 第二十八條 府尹或ハ郡守事故アル時ハ首席官吏其職務ヲ代辦ス
 但隣接ノ地方郡守ヲシテ其職務ヲ代辦セシムルコトヲ得
 第二十九條 府郡主事ノ定員ハ内部大臣之ヲ定ム
 府郡主事ハ上官ノ指揮ヲ承ケ職務ニ従事ス
 附 則
 第三十條 本令ハ隆熙二年一月一日ヨリ施行ス
 第三十一條 光武十年勅令第五十號地方官々制建陽元年勅令第四十八號光武三年勅令第二十三號及其
 他本令ニ抵觸スル規程ハ並廢止ス

●巡查給與令(隆熙元年十二月二十七日内部令第五號)
 第一條 巡查ノ月俸ハ別表ニ依ル但日本人タル巡查ニハ別ニ手當ヲ給ス
 教習中巡查ノ月俸ハ三圓乃至五圓トス
 第二條 初任巡查ヲ被命シタルモノノ月俸ハ六級以下トス
 第三條 六級以上ノ月俸ヲ受クル巡查ハ六個月ヲ經過スルニアラサレハ増給スルコトヲ得ス
 第四條 判任官以上ノ官職又ハ巡查ノ職ニアリタルモノ或ハ巡查監督ノ任ニ當ル巡查及刑事、通譯其
 他特別ノ技能ヲ有スル巡查ハ第二條ヲ適用セス
 第五條 刑事、通譯其他特別ノ技能ヲ有スル巡查ニハ一個月二十圓以内ノ特別手當金ヲ給スルコトヲ得
 第六條 巡查ニハ一個月拾圓以内ノ宅料ヲ給スルコトヲ得
 第七條 月俸ハ新任増俸及降俸ノ場合ニハ其翌日ヨリ給シ退職ノ場合ニハ其全額ヲ給ス但懲戒免職又

ハ自己ノ任意ニヨリ退職スルモノニハ日割ヲ以テ給ス
 第八條 舍宅料及特別手當金ノ給與ニ關スル規定ハ別ニ定ム
 第九條 病氣ノ爲メ執務セザルコト六十日ヲ離ユルモノ又ハ私故ニテ執務セザルコト二十日ヲ離ユルモノハ日割ヲ以テ月俸ノ半額ヲ減ス但公務ニ因リ傷疾ヲ受ケ或ハ疾病ニ罹リ又ハ服忌ニ當ルモノハ此限ニ在ラス

附 則

第十條 本令ハ隆慶二年一月一日ヨリ施行ス
 第十一條 本令施行ノ際別ニ辭令ヲ受ケザルモノハ現ニ受ケル月俸及特別手當金ヲ給セラレタルモノトス
 第十二條 光武十年二月内務令第一號各道及各開港市警務署巡檢俸給規定ハ本令施行日ヨリ廢止ス

巡査監督ノ任ニ在ル巡査	其	他	巡	査
一級	二級	三級	四級	五級
六級	七級	八級	九級	十級
十一級	十二級	十三級	十四級	十五級

● 巡査採用規則 (隆慶元年十二月二十七日内務令第六號)

第一條 巡査ハ身體検査及學術試験ニ合格シタルモノヨリ採用ス
 第二條 左記各號ノ一ニ該當スルモノハ學術試験ヲ要セス巡査ニ採用スルコトヲ得
 一 文官任用令第二條ニ依リ判任文官タル資格ヲ有スルモノ又ハ現ニ判任官以上ノ官職ニ在ルモノ及日本人ニシテ同國文官任用令第三條ニ依リ判任官タル資格ヲ有スルモノ或ハ會テ判任官以上ノ職ヲ奉シタルモノ
 二 前ニ總巡又ハ權任ノ職ニ在リ退職シタル後滿三年ヲ經過セザルモノ及日本人ニシテ巡査精熟證書ヲ有スルモノ或ハ會テ巡査ノ職ニ在リテ退職ノ後滿五年ヲ經過セザルモノ
 三 陸軍下士以上ノ職ニ在リタルモノ及日本人ニシテ陸海軍下士適任證書ヲ有スルモノ
 四 特種ノ技能ヲ有スルモノ
 第三條 左記各號ノ一ニ該當スルモノハ巡査ニ採用スルコトヲ得ス
 一 禁獄以上(日本人ハ禁錮以上)ノ刑ニ處セラレタルモノ
 二 懲戒ニ依リ免職トナリ滿一個年ヲ經過セザルモノ
 三 身分不相應ノ負債アルモノ又ハ素行不良ナルモノ
 四 年齢二十歳未滿及四十五歳以上ノモノ
 第四條 身體検査ハ左ニ掲ケル標準ニ依リテ之ヲ行フ
 一 體質善良身長五尺以上ニシテ姿勢容貌醜惡ナラス全身ノ諸機關ノ機能健全ナルモノ
 二 皮膚病及ヒ其他嫌疑スヘキ疾病ナキモノ
 第五條 學術試験ハ身體検査ニ合格シタルモノニツキ之ヲ行フ
 學術試験ヲ分チテ筆記及口述トシ筆記試験ニ合格シタルモノニツキ口述試験ヲ行フ
 第六條 學術試験ハ左ニ掲ケル科目ノ中ニ就キ之ヲ行フ
 一 警察法規ノ大要
 二 刑事法令ノ大要
 三 歴史及地理ノ大要
 四 作文及筆寫

ノ職ヲ奉シタルモノ
 前ニ總巡又ハ權任ノ職ニ在リ退職シタル後滿三年ヲ經過セザルモノ及日本人ニシテ巡査精熟證書ヲ有スルモノ或ハ會テ巡査ノ職ニ在リテ退職ノ後滿五年ヲ經過セザルモノ
 陸軍下士以上ノ職ニ在リタルモノ及日本人ニシテ陸海軍下士適任證書ヲ有スルモノ
 特種ノ技能ヲ有スルモノ
 左記各號ノ一ニ該當スルモノハ巡査ニ採用スルコトヲ得ス
 禁獄以上(日本人ハ禁錮以上)ノ刑ニ處セラレタルモノ
 懲戒ニ依リ免職トナリ滿一個年ヲ經過セザルモノ
 身分不相應ノ負債アルモノ又ハ素行不良ナルモノ
 年齢二十歳未滿及四十五歳以上ノモノ
 身體検査ハ左ニ掲ケル標準ニ依リテ之ヲ行フ
 體質善良身長五尺以上ニシテ姿勢容貌醜惡ナラス全身ノ諸機關ノ機能健全ナルモノ
 皮膚病及ヒ其他嫌疑スヘキ疾病ナキモノ
 學術試験ハ身體検査ニ合格シタルモノニツキ之ヲ行フ
 學術試験ヲ分チテ筆記及口述トシ筆記試験ニ合格シタルモノニツキ口述試験ヲ行フ
 學術試験ハ左ニ掲ケル科目ノ中ニ就キ之ヲ行フ
 警察法規ノ大要
 刑事法令ノ大要
 歴史及地理ノ大要
 作文及筆寫

法 令

五 警衛
第七條 逕査ニ採用セントスルトキハ豫メ左ノ警書ヲ徴スヘシ

今般逕査志願仕候ニ付キ採用ノ上ハ左ノ諸件ヲ遵守可申候

- 一 服務紀律ヲ恪守シ百般ノ責務ハ嚴正忠實ニ踐行スル事
- 二 民衆ニ對シテハ恭順親切ニ職務ヲ執行スル事
- 三 奉職三箇年ニ滿タスシテ一身上ノ故ヲ以テ辭職請願ヲ提出セサル事
- 四 自己ハ勿論家族ニ至ルマテ品行ヲ慎ミ警察官吏タリ又其家族タルノ體面ヲ汚損セサル事

年 月 日
本籍住所 姓名印

附 則

第八條 本規則ハ隆熙二年一月一日ヨリ施行ス
第九條 開國五百四年八月内部分第七號逕査採用規則ハ本令施行日ヨリ廢止ス

●逕査給與品及貸與品規則(隆熙元年十二月十七日 内部令第七號)
第一條 逕査ニハ帽(帽章共)冬衣、冬袴、甲種外套、乙種外套、日覆、夏衣、夏袴、下襪、手套、冬襪、冬袴下、夏衣、夏袴下、靴下、長靴及短靴ヲ給ス
第二條 逕査ニハ肩章、劔、劔緒、劔帶、外套編革、手帖、捕繩、警笛ヲ貸與ス
第三條 給與品ハ現品ヲ以テ支給ス但場合ニ依リ其一部或ハ全部ヲ代料ヲ以テ支給スルコトアルヘシ

給與品ヲ代料ヲ以テ支給スル場合ニハ其員數ニ對スル代價ヲ一箇年ノ總額トシ月額ヲ以テ支給ス但代價ハ別ニ定ム
第四條 給與品ノ員數保存期限及支給期日ハ左ノ如シ

品 目	員 數	保 存 期 限	支 給 期 日
帽	一	十二個月	五月三十日
冬衣	一	二十四個月	九月三十日
冬袴	一	二十四個月	九月三十日
甲種外套	一	二十四個月	九月三十日
乙種外套	一	二十四個月	九月三十日
日覆	一	二十四個月	九月三十日
夏衣	一	二十四個月	九月三十日
夏袴	一	二十四個月	九月三十日
下襪	一	二十四個月	九月三十日
手套	一	二十四個月	九月三十日
冬襪	一	二十四個月	九月三十日
冬袴下	一	二十四個月	九月三十日
夏衣	一	二十四個月	九月三十日
夏袴下	一	二十四個月	九月三十日
靴下	一	二十四個月	九月三十日
長靴	一	二十四個月	九月三十日
短靴	一	二十四個月	九月三十日
肩章	一	二十四個月	九月三十日
劔	一	二十四個月	九月三十日
劔緒	一	二十四個月	九月三十日
劔帶	一	二十四個月	九月三十日
外套編革	一	二十四個月	九月三十日
手帖	一	二十四個月	九月三十日
捕繩	一	二十四個月	九月三十日
警笛	一	二十四個月	九月三十日

短	長	一	一
靴	靴	同	同
		一月一日	七月一日

前項ノ給與品ニシテ支給期日以外ニ支給シタルモノノ保存期限ハ次ノ支給期日ヲ以テ終ル但返納品ヲ支給シタル場合ニ限ル

第五條 貸與品又ハ保存期限ノ終ヘタル給與品ヲ毀損又ハ紛失シタルトキハ他品ヲ貸與或ハ給與シ其過失又ハ怠慢ニ出ラタルトキハ之ヲ辦償セシム

第六條 貸與品ハ退職轉職又ハ死亡ノ場合ニ於テハ此ヲ返納セシム使用期限カ終ヘタル給與品亦同シ

第七條 給與品及貸與品ノ員數ハ此ヲ減シ又ハ其保存期限ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第八條 本令ハ陸軍二年一月一日ヨリ施行ス

第九條 光武十年十一月内閣令第十五號權任巡權給與品及貸與品支給規則ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

● 巡查懲罰令 (陸軍二年一月二十二日) (内閣令第一號)

第一條 巡查ノ懲罰ヲ受クヘキ場合左ノ如シ

一 職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ

一 職務上ノ威嚴又ハ信用ヲ失フヘキ所爲有リタルトキ

第二條 懲罰ノ種類左ノ如シ

一 免職

二 降俸

三 減俸

四 譴責

第三條 降俸ハ一級又ハ二級トス

第四條 減俸ハ月俸一個月分以内トス

第五條 減俸處分ヲ受ケタルモノ退職若ハ死亡シタルトキハ其ノ月ノ減俸ヲ免ス

法令

七

69

○例規

●韓人逕査ノ任免ハ各道ニ於テ攝行スヘキ件(隆熙二年十二月二十日 内部大臣訓令)

各道

逕査ノ任免(日本人ヲ除ク)ハ各道ニ於テ攝行スヘシ
右訓令ス

●警察官署門標樣式ノ件(隆熙二年一月八日 内部大臣訓令)

警察署警察分署及逕査派出所逕査駐在所標札ハ左ノ通定ム

何警察署	何警察分署	逕査派出所	逕査駐在所
堅曲尺五尺 横同一尺一寸 厚同一寸	堅曲尺四尺 横同一尺 厚同一寸	釜山(大邱)警察署	釜山(蔚山)分署
記載例	記載例	各道	各道

例規

何警察署 何巡查派出所(駐在所)
何分署

堅曲尺三尺五寸
横同八寸
厚同八分

釜山 何巡查派出所(駐在所)
釜山警察署
蔚山分署 何巡查派出所(駐在所)

●賄料支給規則(應照二年一月二十三日
内部大臣訓令第一〇一號)

賄料支給規則左ノ通定ム

賄料支給規則

- 第一條 巡查ニハ賄料ヲ給ス
- 第二條 賄料ハ宿直勤務又ハ臨時勤務ニ從事スルモノニ之ヲ給ス但臨時勤務ト稱スルハ巡查カ非當日ニ勤務ニ從事シ午後十二時ヲ經過シタル場合ヲ云フ
- 第三條 警察署及分署ニ在リテハ宿直賄料ヲ給スル巡查ハ各一人トス但土地ノ狀況ニ依リ其人員ヲ増減スルコトアリ
- 警視廳ハ特種ノ事由アル場合ニハ豫算範圍内ニ於テ本則第二條ノ稱別ニ依ラスシテ賄料ヲ給スルコトヲ得
- 本條第一項但書及第二項ノ場合ニ在リテハ賄料ノ額及其事由ヲ具陳シ本大臣ノ認可ヲ受ケルヲ要ス
- 第四條 小使ニシテ宿直スル時ニハ本則ニ依リ賄料ヲ支給ス

内部 警務局
各 警 視 廳

第五條 賄料ノ額ハ左ノ如シ

- 一 巡查宿直賄料 一夜十錢以内
- 一 同時勤務賄料 一夜十五錢以内
- 一 日本人小使宿直賄料 一夜五錢

●巡查舍宅料支給規則(應照二年一月二十三日
内部大臣訓令第二號)

巡查舍宅料支給規則ヲ左ノ通り定メ應照二年一月一日ヨリ施行ス

巡查舍宅料支給規則

- 第一條 日本國人ニシテ巡查ニ任用セラレ左地ニ勤務スルモノニハ舍宅料ヲ給ス
 - 一 漢城府
 - 一 平壤警察署、新義州警察署、釜山警察署、仁川警察署、大邱警察署、馬山警察署、蔚山警察署、木浦警察署、元山警察署、鎮南浦警察署及城津警察署所在地
- 第二條 舍宅料ノ支給額ハ左ノ通り四等ニ區別ス
 - 一 等 十 圓
 - 二 等 八 圓
 - 三 等 六 圓

内部 警務局
各 警 視 廳

規

三

例規

第三條 合宅料ノ支給ハ左ノ區別ニ依ル

- 四等 五 圓
- 一等 漢城府
- 二等 平壤警察署及新義州警察署
- 三等 釜山警察署及仁川警察署
- 四等 大邱警察署、馬山警察署、群山警察署、木浦警察署、元山警察署、鎮南浦警察署及城津警察署
- 第四條 官舎其他官建造物ニ居住スル者ニハ合宅料ヲ給セス
- 第五條 合宅料ハ若任ノ翌日ヨリ給ス但本則第四條ニ該當ノ事由生スルカ又ハ退職、轉職、死亡ノ場合ニハ其當日マテ日割ヲ以テ給ス

● 巡査特別手當支給規則 (隆熙二年一月二十三日 内部大臣訓令第一三三號)

内部 警務局
各 警 視 道 廳

巡査特別手當支給規則左ノ通定ヲ隆熙二年一月一日ヨリ施行ス

巡査特別手當支給規則

- 第一條 刑事又ハ通譯其他特別ナル技能ヲ有スル巡査ニハ左ノ區別ニ依リ特別手當ヲ支給ス
- 二十 圓
- 十五 圓

- 十七 圓
- 十五 圓
- 十四 圓
- 十三 圓
- 十二 圓
- 十一 圓
- 十 圓
- 九 圓
- 八 圓
- 七 圓
- 六 圓
- 五 圓
- 四 圓
- 三 圓
- 二 圓

- 第二條 特別手當ハ發令ノ翌日ヨリ支給ス退職又ハ轉職ノ場合ニハ其當日マテ日數計算ヲ以テ死亡ノ場合ニハ當月分全額ヲ支給ス
- 第三條 病氣又ハ其他故障ニ依リ執務セル事十五日以上ニ及フモノニハ月手當ノ半額ヲ減シ三十日ヲ踰ヘタルモノニハ支給セス但公務ニ依リ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノ又ハ父母ノ祭日又ハ其他服忌ニ當リタルモノハ此ノ限ニアラス
- 第四條 特別月手當ハ毎月末日ニ支給スルモノトス
- 第五條 特別月手當ヲ支給スルモノニハ辭令ヲ交與ス辭令ハ各道ニ勤務スルモノニハ内部ヨリ警視廳ニ勤務スルモノニハ同廳ヨリ交與ス
- 第六條 日數計算ヲ以テ支給スル際ニハ其計算方ハ其月ノ現日數ニ依ル

● 巡査給與品中代料ヲ以テ支給スル品目ノ件 (隆熙二年一月二十三日 内部大臣訓令第一三四號)

内部 警務局
各 警 視 道 廳

逓査給與品及貸與品規則第四條ニ揭載ノ給與品中左ノ給與品ハ日本人逓査ニ限リ代料ヲ以テ給與ス
但代料ハ各品ヲ通シテ一個年十五圓トス

- 一 夏褸衣及夏袴下
- 一 冬褸衣及冬袴下
- 一 手袋
- 一 下襟
- 一 長靴
- 一 短靴
- 一 靴下

右訓令ス

●警察官署及警察署長分署長並警視警部印章様式ノ件 (陸海軍二年二月十四日)

各 警 視 廳

本年閣令第二號印章規程ニ據リ警察官署及警察署長分署長並警視警部ノ印章左ノ通彫刻作製スル儀ト心得ヘシ

何 警 察
署 印

何 警 察
署 何 分
印

何 警 察
署 長 印

何 警 察
分 署 長 印

警 視
之 印

警 部
之 印

●逓査給與令第一條ニ依ル日本人逓査月手當額 (陸海軍二年十二月三十日警視警部第三八二號)
逓査給與令制定相成候處同令第一條ノ日本人逓査ニ對スル手當額左ノ通定メラレタリ

逓 査 手 當 表

本俸一級俸ヲ受ケルモノ	本俸二級俸ヲ受ケルモノ	本俸三級俸ヲ受ケルモノ	本俸四級俸ヲ受ケルモノ	本俸五級俸ヲ受ケルモノ	本俸六級俸ヲ受ケルモノ	本俸七級俸ヲ受ケルモノ	本俸八級俸ヲ受ケルモノ
三十六圓	三十三圓	三十圓	二十八圓	二十六圓	二十五圓	二十四圓	二十三圓

●同上ノ件 (陸海軍二年十二月三十日訓令五)

警 察 分 署

規

七

巡査給與令制定相成候處同令第一條日本巡査ニ對スル手當如左定メラル

(巡査手當表ハ内務大臣ヨリ警務局長ト同シキナリテ略ス)

●理事官ハ日本人ニ對シ警察上緊急ヲ要スル場合ニ直接巡査ヲ指揮スルノ件
(陸元十二年四月九日警務局長ヨリ訓令三)
(四五號ヲ以テ警務局長ヨリ訓令三)

警察分署長

今般内部令第四號ヲ以テ警察官署管轄區域改定相成候處理事廳管轄内ノ駐在所ニシテ他ノ理事廳管轄内ニ在ル警察署又ハ分署ニ屬スル分モ有之理事官カ日本人ニ對シ警察上緊急ヲ要スル場合ニ於テ一々其警察署長又ハ分署長ニ指揮致候テハ時機ヲ失スルノ慮モ可有之ニ付キ時宜ニ應シ理事官ヨリ駐在所勤務巡査ニ直接指揮致候場合モ有之ヘク候條右心得ラルヘシ

●日本人ニ對シ警察事務執行ニ關シ注意ノ件
(陸元十二年四月九日警務局長ヨリ訓令三)
(四五號ヲ以テ警務局長ヨリ訓令三)

警察分署長

客年十一月締結在留日本人ニ對スル警察事務執行ニ關スル日韓協定ノ實行ニ關シ理事廳所在地以外ノ警察署ニ於テ或ハ左ノ見解ヲ爲スモノアリト聞ク

- 一 在留日本人ニ對スル警察事務ノ執行ハ個々ノ場合ニ於テ特ニ理事官ノ指揮命令アルニアラサレハ執行スヘキモノニアラス
- 二 又協定書中ノ日本官憲トハ統監ノ謂ニシテ理事官ヲ包含セス

- 三 日本人取扱ニ對シ恰モ他ノ外國人ト同一視シ又當該理事官ニ對シテモ外國官憲ト異ナル處ナシ
- 四 日本人警察官ト雖モ尙韓國官憲トナリタル以上ハ公文書ハ何レノ場合ニ於テモ絕對ニ陸元年號ヲ用ユルヲ至當トス

從テ在留日本人民ニ關スル警察事務取扱上理事官ノ命令ナキノ故ヲ以テ全ク之ヲ等閑ニ付シ敢テ顯ミス假令事故アルニ際シ管掌スル場合ニ於テモ頗ル冷淡ニシテ動モスレハ公正ヲ失スルノ嫌アリテ在留日本人ヲシテ怨嗟ノ念ヲ抱カシムルコトアリトノ説アリ右ハ素ヨリ一ニノ特例ニ過キササルヘシト雖モ爾今該協定事項ノ實行ニ就テハ左記ノ主旨ニ則リ適當ノ措置ヲ執ラレヘシ

- 一 客年十一月締結在留日本人ニ對スル警察事務執行ニ關スル日韓協定ノ旨趣タル韓國聘備ノ日本人警察官ヲシテ理事官カ有スル警察權ノ執行ニ任セシムルト謂フニ在リト雖モ當該警察官ハ個々ノ事件ニ對シ必シモ特ニ理事官ノ命令ヲ要セス進シテ日本人人民ニ對スル警察事務ノ執行ニ任シ相當保護取締ヲ爲スコト從來ノ理事廳所屬警察官ト異ナルコトナシ
- 二 日本人關係ニ於ケル警察事務ノ執行ニ對シテハ韓國聘備ノ日本人警察官ハ理事廳關係トナリ理事官ノ指揮監督ヲ受クヘク其事務處理ノ年號ハ明治ヲ用ユルモノトス

●警察官服裝ニ關スル件
(陸元十二年十二月三日)
(十日警務局長電報)

警察分署長

警察官服裝ハ當分ノ内通テ從前ノ通りト定メラレタリ

○雜 錄

○警察部長會議 八月三日ヨリ内部警務局ニ於テ各道警察部長ノ會議ヲ開カレ第一日ハ宋内部大臣、岡内部次官、松井警務局長ノ訓示第二日ハ國分大審院檢事總長、藤田駐劄軍々醫部長、明石憲兵隊長ノ訓示及演說第三日ハ中村農商工部農務局長、俵學部次官、劉内部衛生局長ノ訓示及演說武石内部會計課長ノ注意第四日第五日ハ諮問會議第六日ハ松井警務局長ノ指示、藤田軍醫部長ノ赤十字事業ニ關スル演說安住法部書記官ノ事務打合等アリテ同八日閉會セリ

○内部大臣訓示ノ要旨
今回地方官々制及警視廳官制ヲ改正シ道ニ内務部及警察部ヲ置キ諸君ヲ其警察部長ニ補シ觀察使ヲ補佐シテ管下ノ警察事務ヲ直接監督セシムルコトトナリタルハ我韓國警察制度ノ刷新改善ノ上ニ一歩ヲ進メタルモノト信ス是ヨリ觀察使ノ責任一層重キヲ加フルト同時ニ觀察使ヲ補佐シテ其ノ衝ニ當ラルル諸君ノ責任ハ實ニ重大ニシテ政務ノ舉否ハ一ニ諸君ノ勵精勉勵ニ待ナルヲ得ス
我警察制度ハ今ヤ其ノ形式ニ於テ完備セルモノノ如シト雖其ノ實質ニ至リテハ未タ機關具備シ實力充實セルモノト認ムルコトヲ得ス蓋シ警察官吏ノ人員不足ナルト救養ノ不充分ナルトハ警察施設上本大臣ノ最モ憂慮シ最モ遺憾トスル所ナリ警察官吏ノ増員ハ豫算ニ伴フヲ以テ今直ニ諸君ニ満足ヲ與フルコトヲ得サルモ相當ノ時期ヲ見テ増員ヲ計畫シ實力ノ充實ニ努ムル方針ナリ然レトモ諸君ハ可成少數ノ職員ヲ善用シテ其ノ成績ヲ擧ケラルルコトニ深ク注意セラレタシ又韓國警察官吏ニ在リテハ警察官吏ノ本來ノ職務權限スラ理解セズ舊制度ニ於ケル濫權任總巡ノ時代ヲ夢想セルモノ少カラスト思料ス其救養ニ努メ賞罰ヲ嚴ニシ官紀ノ振奮ヲ期セラレタシ

日韓警察官吏カ相提携シテ國情ニ執務シ調和ヲ得ルコトニ努メラルコトモ亦諸君ノ最モ注意ヲ要スルコトト信ス終ニ隔ミ尙一言セザルヘカラナラシムコトハ警察部長ト内務部長トノ關係之ナリ兩者ハ何レモ觀察使ヲ補佐シ恰カモ車ノ兩輪ニ於ケルカ如ク島ノ兩翼ニ於ケルカ如キ關係ヲ有ス能ク相提携シ國情ニ事ヲ處理シ相待テ地方行政ノ實ヲ舉ケラレタシ又地方ノ狀況及重要ノ事項ニ關シテハ可成敏達ニ可成周到ニ報告セラシムルコトヲ希望ス

詳細ナル事項ニ至リテハ次官及局長ヨリ訓示セラルヘシ尙議事ハ勿論其他各道相互ニ相關係スル事項ハ能ク其打合ヲ遂ケ警察事務ノ共同一致ヲ期セラレタシ

○内部次官訓示ノ要旨

這回諸君ヲ召集セシ所以ハ只今大臣ノ訓示ノ如ク官制改革ニ伴ヒ警察制度ノ變更トナリシ結果將來ニ對スル方針及官制改革ノ内容等殊ニ中央ノ意思ヲ示サンカ爲メナリ其ノ大体ノ趣旨ハ先ニ大臣ノ訓示ニヨリ了解セラレタルコト、信スルヲ以テ本官ハ少シク微細ナル事項ニ涉リテ一言セント欲ス諸君中ニハ外務省時代ヨリ奉職シ又ハ顧問時代ニ若ハ統監府時代ニ至リ奉職セラシムルモ又ハ韓國官吏トシテ新任命セラレタルモノアリテ其ノ任命ノ時代モ前後シ又組織ノ上ニ於テモ種々ノ區別アリシコトナリシモ如斯諸君カ打テ一丸トナリ相集リ斯ノ職ニ盡サルニ至リシハ實ニ今回ヲ始メトス諸君ノ就任時期ハ各長短アルモ昨午以來暴徒諸所ニ蜂起シ之レカ鎮定ノ爲メニハ全力ヲ注カシムルノミナラス守備隊憲兵等ノ間ニ立テ大牙錯綜セル諸般ノ事務ヲ整理セラレツツアル多大ノ御盡力ニ對シテハ本官モ大ニ感謝スル次第ナリ尤モ暴徒ハ守備隊ノ非常ナル御盡力ニ依リテ今日ニ至リテハ稍々鎮定ニ赴キタルモ未タ全ク殲滅セリトハ稱スヘカラサルニ依リテ其ノ筋ノ指揮ニヨリ此際尙一層諸君ノ精勵ヲ希望ス又這回制度ノ改メラレタル根本ノ原因及其ノ方針ハ過日統監府及大臣及觀察使等ニ對スル御訓示ノ趣

旨ニ出ルニ外ナラス其訓示事項ノ筆記ハ當時觀察使及各署ニ送付セルモ諸君ノ内ニシテ未タ審手セラレタル方アレハ更ニ配布スヘキニ依リ能ク其ノ意ヲ諒セラレタシ中央ノ機關ハ各部官制ノ發布ニ伴ヒ施設漸ク其ノ緒ニ就キタルモ地方ノ機關ハ職員ノ不足ナルト殊ニ交通運輸通信等ノ不便ナルカ爲メ其ノ制度ノ發達進捗ヲ阻害スルコト少カラス頗ル困難ヲ感シツツアリ然ルニ制度ノ發達ヨリ之ヲ云ヘハ先ツ地方ヲ刷新シテ其ノ發達ヲ計ルト云フコトカ國ヲ起スノ基礎ニシテ地方ノ發達ハ取リ直サス中先ニ警察行政ニ止マラス其ノ他一般ノ行政事務ニ於テモ尙然リ

今後尙ホ幾多ノ形ニ於テ改革ノ實行セララルヘキモノアルヘキモ先ツ第一ニ顯ハレタルハ警察制度ノ改善ヲ實行セラレタルニ過キス是ヨリ漸次研究ヲ積ミ諸君ト共ニ其ノ改善刷新ヲ期セントス又事務ノ取扱方其ノ他會計整理ノ點ニ關シテハ警務局長若ハ會計課長等ノ意見ヲ聞カレテ整理セラレ度キモ茲ニ職務執行ノ上ニ就テ特ニ注意スヘキハ即チ職務ノ執行ヲ嚴重ニスヘキコト是ナリ元來韓國ニ居ル日本官吏ハ警察官タルト否ト問ハス最初ヨリ種々ナル批難モアリ又賞賛セラシムル事柄モアリテ其ノ功績ニ於テモ見ルヘキモノナシトセザルモ就中警察官ハ職務柄最嚴重ナルヘキモノナルノミナラス直接人民ニ接スル多キカ爲メ非難モ功績モ他ニ比シ人民ニ感動ヲ與フルコト大ナルカ故ニ特ニ一層ノ注意ヲ拂ヒ規律ヲ嚴肅ニセザルヘカラス規律ノ嚴肅ナルトハ雷ニ委勢禮式等外部ニ現ハル、規律的動作ノミナラス内部ニ於ケル規律的精神ヲ修養スルコト最肝要ナリトス苟モ一違查ノ非行ト雖モ延テハ警察行政ノ上ニ多大ノ影響ヲ及ホシ終ニハ諸君ノ責任ヲモ亦之ヲ同ハサルヘカラサルニ至ル故ニ忠實ノ心ヲ基トシ一般人民ニ對シテハ叮嚀親切ヲ旨トシ公私ノ區別ヲ明ニシテ出來得ル限リ最正忠實ニ職務ヲ執行セラレンコトヲ特ニ望ム所以ナリ

又韓國ニ在リテハ警察官本然ノ職務タル喧嘩ノ取締盜賊ノ捕縛等ノコトノミナラス苟モ善良ナル事柄

ナレハ之ヲ諒シ又救済シ人民ノ幸福ヲ増進セシメ以テ一般人民ノ安堵スル機運ヲ切ナラサルヘカ
ス新ク申上ケルモ豫算上ノ關係ヨリシテ諸君ノ手足タル警部巡查ノ數ハ至ツテ少數ニシテ日本等ト之
ヲ比例スル能ハス因ヨリ充分ノ配置ト云フヲ得ス到底完全ナル職務執行ハ困難ノコトナルヘキモ能ク
之ヲ善用シテ出來得ル限リ大ナル功績ヲ擧ケラレンコトヲ望ム唯人員不足ノ故ヲ以テ何事ヲモ之ニ藉
リ出來スト云フノ一事ヲ以テ其ノ職務ノ不周到ヲ免ル、ト云フコトハ本官ノ執ラサル處ニシテ少數ナ
ル日韓人警察官モ能ク之ヲ指導救済シ遺憾ナキヲ期セラルヘシ
尙韓國人タル警察官救済ニ努メラレンコトヲ望ム聞ク所ニ依レハ韓國人ハ救ヘタルコトハ能ク之ヲ運
守シ韓國人警察官モ亦委勢規律ノ點ニ關シテハ能ク之ヲ守ルノ性格ヲ備ヘ居ルト云フ果シテ然リトセ
ハ之ニ對シ充分ニ警察ノ本旨ヲ注入セハ必ス其ノ効果アルヘシ故ニ諸君ハ申上テモナク韓人ニ對シ
テハ日語ヲ教授シ能ク之ヲ指導誘掖シ又日人警察官ヲシテ韓語ヲ學ハシメ協力一致シテ其ノ職ニ當ラ
ル、コトヲ熱望ニ堪ヘス若シ韓國警察官吏ノ經驗ナク未熟ナルノ故ヲ以テ之ヲ度外視スルカ如キコト
アラシカ警察機關ノ運用上憂慮スルノミナラス日韓警察官吏聯合ノ本趣ニ反スルモノト云フヘシ諸君
ハ此點ニ留意セラレタシ又例ヘ日本人警察官ハ韓人ニ優ルトスルモ經濟上其他ノ關係上日本人警
察官ヲシテ増加スルコトハ不可能ノ事ニ屬ス寧ろ將來ノ方針トシテハ韓人警察官ヲ増加セラルヘカラ
サルナリ諸君ハ能ク韓人警察官ヲ指導救済セラレタシ又日本人警察官ト雖監督監視ノ勵行セラレサル
結果ハ職務執行上往々批難ヲ受クルコトナキニアラサルニヨリ充分其監督ニ努メラレタシ聞巷ノ言畫
ク之ヲ信スルニ由ナキモ烟ノ存スル所豈火ナカラシヤアル不正行爲ハ勿論警察官吏ニシテ勤務時間
中浴衣ヲ着シ散漫タル、狀ハ極メテ見苦シク紀律ノ點ニ於テ是ヲ看過シ能ハサルナリ地方ニ至レハ如
斯モノ絶無ト云フヲ得スト聞ク特ニ諸君ノ監督注意ヲ望ム又遠來ノ日本人警察官ニ對シテハ相當ノ慰
安方法ヲ講スルコトモ必要ナリ要スルニ日韓人共ニ能ク指導救済シ能ク其ノ職ニ安シテ其職ニ盡サシ

ムル機之ヲ善用スルコトカ肝要ナリ諸君ノ部下タル巡查カ不都合ナル行爲アルトキハ結局監督長官タ
ル諸君ノ不都合ト云フコトニ歸着スヘシ之等救済其ノ他ニ關シテハ從來モ無論精勵ノコト、信スルモ
露來ハ層一層ノ御奮勵アリテ賞罰ノ嚴ニシ監督監視ヲ勵行セラレ中央又ハ地方監督者ノ監視監督等ヲ
待タスシテ何時モ自信アル整理實行ニ努メラレタシ
又道ニアリテハ觀察使カ警察權ノ主体ニシテ諸君ハ其ノ補佐トシテ職務ヲ執行シ一面ニアリテハ他ノ
警察署長ヲ指揮監督スルノ機關トナリ居リテ諸君カ警察權ノ主体ニアラサルコトハ篤クト記憶ヲ望ム
處ナリ現觀察使ハ幸ニモ日本ノ事情ニ通シ居ラル、モノ多數ナルハ事務ノ處辨上最モ便利ヲ得ル處ナ
ルモ若シ日語等ニ通セスシテ日韓ノ事情ニモ暗キモノアリトセハ宜敷諸君ニ於テ事ノ判明スル迄事實
ヲ開口セラルヘシ萬一不當ナル命令ナリト思フコトアリトスルモ一時ニ激スルコトナク穩カニ之ヲ諒
メテ補佐官タルノ任務ヲ忠ルヘカラス從來觀察使其他ニ關スル不都合ノ行爲ニ付多々報告セラル、向
アルモ他ノ非事ヲ摘發スルヲ以テ能事トセサルコトニ注意ヲ望ム日本ニ於テモ地方ニ警部長ヲ置カレ
タル最初ノ時代ニ在リテハ知事其ノ他ノ非行ノミヲ摘發スルニ汲々タルコトモアリシト云フ諸君ハ事
口是等ノ摘發ヨリハ可成不都合ナカラシムルコトニ努メララル、要ス尤モ實現セル事實ヲ隱秘セヨト
云フノ意ニハアラサルニ付諒解ナキヲ要ス諒メテ聞カス強テ非行ヲ遂ケントスルアラハ其ノ時コソ遠
慮ナク報告セラルヘシ
又只今大臣ノ訓示ニモアリシ如ク各道書記官ヲ內務部長ニ補セラレタルニ付テハ車ノ兩輪ニ於ケルカ
如ク互ニ意思ノ疎通ヲ斗リ相輔ケテ弊害ノ起ラサル機運ヲ注意セラレタシ中ニハ書記官タル內務部長
ヨリ上席ナル向モアルコト、信スルモ互ニ席次等ニ拘泥セス却テ上席者ハ事口善ク注意シテ諒議シ圖
滿ニ政務ヲ料理セラレンコトヲ希望ス內務部警察部各其權域ヲ明ニシ自己ノ職務權限ニ從ヒ全力ヲ注
カサルヘカラサルハ勿論ノコトナルモ余ハ其ノ權限ヲ固守シ城壁ヲ設タルコトハ前達ノ趣旨ニ反スル

カ故ニ事相互ニ關係スルコトハ勿論然ラサル事項ト雖必要ニシテ差支ナキ範圍ニ於テハ互ニ協議シテ
事ヲ圖ルニ處理シ服テ地方行政ノ全般ニ注カレタシ亦諸君ハ今後共多數ノ韓國人民ニモ接セラレ、コ
トニ付其ノ處遇上ニ於テモ最可憐切ニシテ地方民心ノ信頼ヲ篤クシ人民ヲシテ警察ノ難有味ヲ知
ラシメ警察ヲ謳歌スルニ至ラシムルコトニ注意セラル、コトカ最モ肝要ナルコト、信ス地方民心ノ向
フ處ヲ知ラントスルモ一々諸君ノ勉勵如何ニ待タサルヲ得サルナリ諸君ハ獨リ警察行政ニ限ラス苟モ
氣ノ付タル處ハ樹木ノ栽培耕作ノ方法ニ至ルマテ指示セラル、モ可ナリ又交際ヲ好ムモノニハ交際ヲ
爲スモ可ナリ警察官ノ職務ハナアベルノ力ノミヲ以テ執行スルニアラスシテ圓滿ナル思慮ト周到ノ
注意ヲ要スルコトニ深ク留意セラレタシ又我韓國ニハ統監ニ隷屬セル憲兵アリテ憲兵條例ニヨリテ其
ノ職務ノ執行ヲ爲セリ行政警察ニ司法警察ニ常ニ諸君ノ管掌事務ニ密接ノ關係ヲ有スルノミナラス暴
徒討伐ニ關シテハ守備隊ノ行動ヲ補ケテ其ノ目的ヲ達セラルヘカラス此ノ錯綜セル間ニ處シ能ク其ノ
機宜ヲ誤ラサルコトニ努メラレタシ尙ホ憲兵トノ職務上ノ關係ニ付テハ別ニ席ヲ設ケテ談スヘシ尙從
來各署長ヨリノ報告ハ直接内部ニ爲シ來リシモ今後ハ之レヲ改メテ觀察使ヨリ大臣ニ報告スルコト
セリ尤モ緊急ノ事故ハ從來ノ通り警務局長又ハ大臣ニ直接電報其ノ他ノ方法ニ依リ報告シテ可ナルヘ
キモ此ノ場合ハ同時ニ觀察使ヘモ報告セラルヘシ尙從來往々急ヲ要セサルモノヲ電報シ又ハ電文ニシ
テ徒ラニ冗長ナルモノナキニアラス如斯ハ經費ニ關スルコト故注意アリタシ又報告ノ如キモ可成精細
ヲ望ムト雖トモ事柄ニ依リテハ其ノ要ナキモノモ少カラス宜シク事ノ緩急輕重ヲ計リテ之ヲ取捨シ觀察
使ノ承知シ大臣ノ承知セラルモ可ナルヘキ事項ニ關シテハ之ヲ省略セラレタシ
要スルニ警察權行使ノ中樞ハ觀察使ニシテ地方警察權ノ所在ハ觀察使ニアルコトヲ配屬セラレ可成執
務ノ敏捷ト簡捷ヲ期セラレタシ職務ノ簡捷ヲ計ルハ小數ノ人員ヲ能ク利用スル所以ニシテ現時人員ノ
不足セル韓國警察ニハ殊ニ其ノ必要ヲ認ムヘシ

以上ニ於テ所信ノ大要ヲ述ヘタリ尙氣付タルコトアレハ御滯在中ニ御話致スヘシ諸君ニ於テモ觀察使
ヲレタル職務上ニ關シ意見アレハ御話ニナリ又ハ書面ヲ認メ意見書トシテ呈出セラレハ拜見モシ又
大臣ニモ供覽スヘシ

○警務局長訓示ノ要旨
今回ハ暑中特ニ暴徒猶未タ撲滅ニ至ラス各自殆ント在任地ヲ離ルヘカラザルノ時ナルニ拘ハラス敢テ
此會議ヲ召集セラレシ所以ノモノハ前ニ大臣次官ノ訓示ニモアリタルカ如ク地方政治ノ刷新ニ際シ先
ツ中央政府ノ意志ノ在所ヲ通センカ爲ニシテ即チ極メテ短キ時日ヲ以テ之ヲ遂ントセルモノナリ、
諸君ハ曩ニ警察署長トシテ重大ノ任務ニ當リ特ニ其部下ニハ暴徒ノ爲メ戰死者負傷者ヲモ出シタリ是
レ諸君ノ最モ痛心セル所ナルヘシ此點ニ於テハ本官モ特ニ同情ニ堪ヘス茲ニ先ツ謹クテ哀悼ノ意ヲ表
ス本會議ノ召集ニ就テハ大体ノ事ハ既ニ大臣次官ノ訓示モアリ敢テ蛇足ヲ添フルヲ要セサルカ唯本官
ハ別ニ聊カ韓國警察官ノ職責其他職務上ニ就テ一言スル所アラントス
第一韓國警察官ノ職責
抑モ韓國警察執務ノ困難ナルコトハ世ノ皆認ムル所ニシテ自分モ乏キヲ斯職ニ受ケ日夜拮据經營僅カ
ノ時日ナレトモ此間ノ經驗ニ依レハ益々其容易ニアラサルヲ感セスンハアラス況シテ地方ニ在テ親シ
ク人民ニ接スル各位ニ於テ殊ニ然リト信ス之レ實ニ推察ニ餘リアリ蓋シ斯國警察ノ困難ナル其理由ハ
國情ノ甚シク混雜セルカ爲メ其結果トシテ此ヨリ産出セル警察制度モ亦甚シク混雜セルニ因リ即チ暴
徒討伐ニ關シテハ軍司令官、下ニ在リテ其指揮ヲ受クルコト、ナリ居リ憲兵モ亦内地ト越テ異ニシテ
警察權ヲ行フカ故ニ薩長ノ交涉アリ又日本人警察ニ關シテハ理事官トモ關係アリ更ニ外國人ニ關スル
件ニ就テハ統監府トノ交涉ヲ要スヘク又監獄事務及司法警察執達吏事務等ニ關シテハ法部ニモ關係アリ

ルヘク新ル復雜ナル制度ノ間ニ立チテ警察官タルノ地位ヲ保チ其職責ヲ全フセントスルハ隨分困難ナ
ル事ナリトス唯斯ノ如ク復雜ナル關係ニ於テ復雜ナル社會ニ處スルカ故ニ是ニ次官モ訓示セラレタ
カ如ク統監大臣ノ觀察使ニ訓示セラレタル趣旨ヲ會得シ之ヲ玩味セラレテ能ク實行セラレタシ特ニ本
官ノ遺傳トスル所ハ韓國警察ノ信用未タ薄ク人民ヲシテ保護官タルコトヲ充分了解セシムルコト能ハ
ナルコト是ナリ之ニ就テハ唯警察官タルモノ自ラ實行シテ其地位ヲ説明スルヲ以テ最モ肝要トス又日
本人警察官トシテ注意スヘキ事ハ兎角本國ニ於ケル經驗ノ結果トシテ直譯的ニ其儘之ヲ行ハントスル
ノ弊ナルカ韓國ニテハ決シテ其儘ニテハ行ハレズ善ク國情ヲ察シ之ニ適合スル様應用スルヲ要ス第一
文明ノ程度異ナリ特ニ制度ハ甚シク混雜セリ彼ノ風俗警察營業警察衛生警察等ノ如キ内地ニテハ常ニ
勵行ヲ必要トスル所ナレトモ斯國ニテハ嚴ニ過クル時ハ却テ害ヲ生スルコトアルヘク却テ他ニ大影響
ヲ及ホスコトアリ此間ノ消息ハ特ニ注意ヲ要ス今日ニ於テ警察官ノ最モ急務トスル所ハ風俗警察ヲ營
業警察等ニ非スシテ刑事警察ナリ畢竟スルニ正確ナル證據ヲ擧ケテ窃盜強盜取問脅喝等ノ犯人ヲ捕
生命財產ノ安固ヲ保障シテ人民ヲシテ安心セシムルニアリ
又觀察使ハ道合ヲ發布スルノ權能ヲ有セラル、モ私見トシテハ可成警察規則ハ制定セサルコトトナシ
若シ必要ニ迫ラレ是非制定セサルヘカテアラハ高止ムヲ得サルモ可成ハ説諭等ノ方法ニ依リ
指導的實行ヲ期セラレタシ又疊キニ次官モ訓示セラレタルカ如ク韓人警察官ノ教養ハ勿論兩班其他ノ
人民ニモ能ク接シテ地方ノ狀況ヲ審ニシ人情ヲ察セラル、コト殊ニ必要ナリ彼ノ儒生兩班ノ如キハ兎
角一方ノ思想界ニ勢力ヲ有スルモノナレハ此等ハ導ヲ利用スヘシ以テ風氣ヲ開キ又人民ヲシテ統監政
治ノ主旨ヲ了解セシムルニ大ナル効力アルヘシ尤モ統監政治ノ主旨ヲ説明スルニ際シ若シ其主旨ヲ誤
ルトキハ却テ妨害アルコト故暮々モ統監ノ訓示等ハ充分ニ服膺致シ置カレ度シ

第二警察改善ノ方法

次ニ警察ヲ改善スル方法ニ就テ説明ヲ試ミント欲シ改善ノ方法ハ他ニ非ス即チ警察官其人ヲ得ル
ニアリ善ヲ進メ惡ヲ黜ケテ改善モ始メテ緒ニ就クヘシ其他中央地方意志ノ疏通ヲ缺ク如キモ最モ要
ヘキ事ナリ唯從來ハ巡視官モナク相互ノ疎通ヲ計ルノ機關ナク誠ニ已ムヲ得ザリシモ今後ハ努メテ其
道ヲ講スヘキヲ以テ同時ニ諸君ニ於テモ善ク各道ノ警察官ト各警察署トノ連絡ヲ計リ署ヨリ部、部ヨ
リ本省ニ常ニ能ク意志ノ通セシムルコトヲ望ム地方巡視ニ關シテハ巡視官ハ固ヨリ其他ノモノモ可成多ク
派遣スヘク歸任ノ上ハ報告會ヲ開キテ必ス其狀況ヲ述ヘシメ以テ互ニ地方ノ狀況ヲ研究シ居レハ諸君
ニ於テモ亦能ク此意ヲ諒シテ地方ハ地方トシテ適當ノ方法ヲ講シ是等ノ研究ニ努メラレタシ又警察月
報ノ如キモ愈々近日發刊ノ管ナレハ中央ト地方ノ意思疏通ノ一機關トシテ利用セラル、ニ至ルヘシ
猶ホ改善ニ關シテノ注意スヘキ事アリ警察官ハ内地ニテモ兎角狹量ニ失スルノ弊アリ然レトモ社會ヲ
離レテ警察ナク社會ヲ民衆ノ爲メノ警察ナレハ常ニ社會ヲ本位トシ其活潑々地ノ日々ノ狀勢ニ注意ス
ヘシ

巡査ニ對スル教養ハ警察改良上最重要ナルモノナリ如今暴徒事務モ多端ナルヘク其鎮定モ洵ニ急ヲ要
スルニ相違ナキモ而モ之カ爲メ決シテ教養ヲ等閑ニ附スヘカラス教養ト云フモ徒ラニ憲法行政法等法
規ノ講義ヲ爲スノ謂ニ非ラス言語操練其他斯國ノ事情ヲ研究シ日韓ノ關係ヲ了解會得セシムルコト最
モ必要トスル所ナリ猶ホ巡査教養ニ就テハ中央ハ固ヨリ地方ニモ漸次教習所ノ設置ヲ完備スル考ヘナ
リ又韓國ニ在ル警察官ニ對シ最モ戒飾ヲ要スルモノハ第一規律ノ養成第二廉恥心ノ砥礪第三民衆ニ親
切ナルコトナリ此三點ニ關シテハ諸君ニ於テモ常ニ善ク注意シテ部下ヲ督勵セラレントラ要ス

第三觀察使理事官等トノ關係
觀察使ニ對スル警察官ノ關係ハ官制ニ於テ明瞭ナルモ從來道内ニ監督スヘキ機關ヲ缺キシ爲メ實際ニ
於テハ密接ノ關係ヲ缺キ居リタルコトハ甚タ遺憾トスル所ナリ過去ハ是ヲ逐フヲ得ス今則其設備モ整

ヒタルコト故是等ノ點ニ注意シ爾滿洲ニ警察事務ノ舉ルコトヲ期セラレタシ理事官ニ對シテモ亦之ヲ無視シ其面目ヲ傷ケルカ如キ態度アルヘカラス兩者ニ對シテハ能ク其職權ヲ重シ自己ノ職權ノ範圍ヲ自覺シテ過誤ナキ様注意アリタシ又報告ノ如キモ觀察使ニハ遺所在地以外ノ理事官警察ノ事情明ナラス尙理事官ニテハ其理事官所在地以外ニ於ケル日本人警察事故ハ知ラズト云フ様ナルコトハ是皆相互連絡ヲ缺クノ致ス所ナリ今後ハ宜敷注意セラレタシ討伐ニ關シテモ最早前日ト雖ヲ異ニシ警察ハ討伐ヲ本務トセス主トシテ偵察ニ從事セラレタシ書記官ニ對シテモ固ヨリ其職ヲ守リ協心戮力セザルヘカラス内務部トノ關係圓滑ヲ缺キ獨リ警察ノミ孤立シテ其効績ヲ舉ケンコト固ヨリ難シ最モ注意ヲ要ス

司法官ハ警察ト相待チテ事ニ當ルコト甚タ多シ是亦協同一致ヲ忘ルヘカラス若シ夫レ世間動モスレハ見ル如ク相互ノ間ニ睨睚反目ノ狀ヲ呈スルカ如キアランカ徒ラニ他人ノ笑ヲ買フニ至ルヘシ慎マサルヘカラス警察官相互ノ交情ハ固ヨリ他官ト雖モ意ヲ用ヒテ圓滿ニ之ニ處セサルヘカラス又彼ノ黨ヲ立テ派ヲ分ツ如キ最戒メサルヘカラス畢竟スルニ黨派ヲ立ツルハ自カラ狹クスル所以ナリ要スルニ統一ヲ破ルモノハ總テ警察ノ敵ナリト知ルヘシ

第四事務上ノ注意
先ツ特ニ諸君ノ注意ヲ喚起スヘキ者ヲ舉ケン
(一) 耶蘇教トノ關係
耶蘇教徒ノ行動ニ就テ注意スヘキモノ少カラス平素ヨリ遺憾ナク意ヲ用ラレタシ
(二) 學校教育ノ方法
教育ハ人ヲ作ルノ道其方法ノ如何ニヨリテハ國家社會ノ安寧秩序ニ影響スル所少カラス今日新聞ノ教育カ如何ナル風ニ行ハレ居ルカ善ク注意シテ其真想ヲ報告センコトヲ望ム

(三) 出版警察

書籍雜誌新聞等出版物ノ人心ニ影響スルモノ亦大ナリ今日坊間ニ行ハルモノニシテ或ハ排日思想ヲ鼓吹シ或ハ詭激ナル韓國獨立論ヲ唱フル等隨分如何ハシキモノアリ現ニ中央ニテハ既ニ意見押收セルモノアリ猶諸君ニ於テモ善ク注意アランコトヲ望ム

(四) 民籍事務

民籍事務ノ如キ是亦重大ナル事務ニシテ追テ民籍法ナルモノヲ發布スル等ナレハ戶口調査ト同シク此ニモ努力セラレタシ

(五) 會計事務

會計ノ事ニ關シテハ課長ヨリ述フル所アルヘキカ警察官ニ於テハ之ニ關シテハ幸ニ今日マテ未ダ何等ノ不都合ヲモ見出サレトモ事金錢ニ關スルヲ以テ自分ハ常ニ心配ニ堪ヘス諸君ニ於テモ善ク部下ヲ監督セラレタシ

(六) 巡視官ニ對スル處遇方

前ニモ述ヘタル如ク警察ハ社會ノ警察ニシテ社會ノ出來事ハ總テ警察ニ關係アリ此故ニ巡視官巡視ノ際ノ如キ直接間接ニ便宜ヲ與ヘラレ萬般ノ狀態ニ亘リテ材料ヲ供給シ觀察ノ目的ヲ全フセシムル様盡力ヲ望ム其際本局又ハ其他ノ事務上ニ關シテ意ニ滿タサルコトアラハ遠慮ナク巡視官ヨリ提出スヘシ或ハ巡視官ノ行動ニシテ不都合アラハ是亦宜シク其實ヲ報告セラレタシ又巡視官ヨリ諸君ニ向テ注意スルコトアルヘシ巡視官ハ一種ノ命令ヲ囑ミテ巡視スルモノナレハ此意ヲ諒セザルヘカラス總テ權限論ノ如キ徒ラニ些末ノ事ヲ爭ヒテ機械的ニ流レナル様注意セラレタシ

(七) 處務規程

處務規程ノ如キモ近々制定ノ筈ナルカ此等ハ備ニ失スレハ用ヲ爲サズ煩ニ過クレハ知テ巡視官

スルコトアリ中央ニテハ完全ナリト信スルモ地方ニテハ實際ニ適セサルコトアリ是等ノ點ニ就テハ注意アラシクコトヲ望ム猶大體ノ主旨ヲ体シテ微細ノ點ハ地方ノ事情ニヨリ斟酌スルノ已ムヲ得サルモノモアラン

(八) 慣行調査

此調査ニシテ早く効ヲ收メサレハ適當ナル警察ハ行フコトヲ得共ニ調査研究センコトヲ望ム所以ナリ猶ホ警務局ヨリモ時々事項ヲ定メテ諸種ノ調査ヲ依頼スルコトアルヘシ是ハ職權ヲ離レテ豫メ深ク御依頼スル所ナリ

(九) 通譯

通譯ハ俸給少ク殊ニ近來他部ニテモ需用アリタルカ爲メ益々困難ヲ感シ居ルヘシト察セラレ、カ唯言語ハ意ヲ通スルノ道大切ナルノミナラス其人ヲ得サレハ弊害少カラズ之カ使用ニハ深ク意ヲ用ヒラレタシ

(十) 外人トノ關係

列國環視ノ裡ニ立チテ日本カ保護權ヲ行ヒ居ルコト、テ最モ注意ヲ要スル所ナルカ在韓外人ニ對スル關係ニ就テハ條約ノ規定其他巡查等ノ心得トナルヘキモノヲ編纂シテ一冊子ト爲シ配布スル等ナリ對外關係ニ付テハ能ク部下ノ周知スル方法ヲ採リ執務上過誤ナキ様注意アリタシ

(十一) 須知簿

其地ノ事情ノ平素能ク調査シテ何事ニテモ大體ハ明答シ得ル様須知簿ヲ調製シ置キ豫メ之ニ記載シ置カレタシ猶ホ此點ニ就テハ項目ヲ定メ調査ヲ求ムル事アルトキハ可成速ニ報告アラシクコトヲ望ム

(十二) 娯樂ノ方法

巡查ノ家族携帯者ノ増加ト共ニ家族ノ娯樂ニ關シテモ其道ヲ講セサルヘカラス又獨身者ニ對シテハ合宿所ノ如キヲ設クヘキカ庭園ヲ設ケテ公務ノ餘暇園藝ニ從事スルモノノ娯樂ナリ或ハ極小規模ノ農事經營ヲ試ムルモ大ニ可ナリ其他時々集會シテ娯樂ノ道ヲ講スルモ必要ナリ兎ニ角巡查等ニ對シテ清新ナル慰安ヲ與フル事ニ注意スヘシ彼ノ蓄音機ノ如キ亦一ノ方法ナルヘシ
巡查ノ生活狀態ニ關シ往々奢侈ノ風アリト聞ク徒ラニ吝嗇是レ事トシ守錢奴ノ風ヲ學ブモ賞スヘキコトニアラサレトモ奢侈ハ又特ニ戒メサルヘカラス
娯樂ノ道ナキニ窮シテ酒食ニ耽溺スル如キハ最モ恐レサルヘカラス警察官ノ失敗ハ酒ニ原因スルモノ多シ酒癖アルモノノ如キハ斷然禁酒セシムルノ外ナシ
以上述フル所ノ如ク韓國警察ハ最モ困難ナル事業ノ一ナルカ唯此困難ヲ自覺シテ協同一致シ兼テ信實必罰以テ其改善ヲ計リ警察ハ社會ノ爲メノ警察ナルヲ思フテ常ニ各般ノ狀態ニ雙眼ヲ注キ而シテ能ク部下ヲ愛撫シ共ニ俱ニ奮勵シテ新道ノ發達刷新ヲ期スルコト切ニ望ム所以ナリ

○殉職警察官ノ遺族ニ吊慰金下賜 地方騒擾事件ニ付鎮壓ニ從事シタル警察官ニシテ職務ニ殉シタル故岩元警務顧問補佐官外三十四名ノ遺族ニ對シ今般内部大臣ヨリ各其ノ功績ニ應ジテ慰藉金及吊祭料ヲ左記ノ通下賜セラレタリ

慰藉金	吊祭料	氏名
六、〇〇〇	一、〇〇〇	岩元義行 遺族
一、五〇〇	二、〇〇〇	山内長三郎 遺族
二、二〇〇	三、〇〇〇	佐藤盛人 遺族
二、七〇〇	三、〇〇〇	松村彌一 遺族

全 全

三

子ナント云フ

故警務顧問補助員山内長三郎氏

故警務顧問補助員山内長三郎氏ハ隆熙元年八月九日江華島ニ於テ暴徒蜂起ニ付警戒中同日午後十二時頃韓兵ヲ交ヘタル暴徒一隊ト遭遇シ單身銃ヲ提ケ巡查駐在所外ナル敵中ニ突撃シ胸部ヨリ背部ニ貫通銃傷ヲ負ヒ駐在所ニ退キ尙屈セス敵ニ銃口ヲ擬シナカラ途ニ力盡キ暴徒ノ爲メ虜ハレ盡許モナク斃ル因ニ氏ハ明治五年一月十三日長崎縣壹岐郡ニ生レ性寡言ニシテ多ク語ラス勇氣アリテ頗ル奉公ノ誠心ニ富ミ身命ヲ顧ミス奮進事ニ當ルヲ常トセリ能ク韓語ニ精通シ將來有望ノ人物ナリシト遺族ハ未亡人山内アイ子及男兒三人アリト云フ

故警務顧問補助員佐藤盛人氏

全 松村彌一氏

故警務顧問補助員佐藤盛人、村松彌一ノ兩氏ハ隆熙元年八月十二日暴徒約四十名突然嶺州警務顧問分遣所ニ來襲シタルヲ以テ同僚ト共ニ死力ヲ盡シテ極力對抗セシモ不幸ニシテ佐藤補助員ハ頭部ニ松村補助員ハ胸部ニ何レモ貫通銃創ヲ受ケ途ニ斃ルニ至レリ因ニ佐藤補助員ハ明治四年一月二十七日大分縣大野郡ニ生レ性正直ニシテ果敢事ニ當テ苟モ避ケス松村補助員ハ明治二年一月十九日山口縣吉敷郡ニ生レ性機敏ニシテ義氣ニ富ミ人情ニ厚ク警察事務ニ精通シ頗ル聲望アリ共ニ良警察官ナリシト佐藤補助員ノ遺族ハ未亡人外八人ニシテ松村補助員ノ遺族ハ長女一人ナリト云フ

故警務顧問補助員原龍太郎氏

故警務顧問補助員原龍太郎氏ハ隆熙元年八月七日嶺州警務顧問分遣所出發軍隊ノ一行ニ參加シ延平原州方面ノ暴徒討伐ニ向ヒ忠州ニ於テ同僚ト分レ歸署ノ途中八月十三日嶺州東方三里栗浦ニ於テ暴徒ノ包圍攻撃ヲ受ケ交戦奮闘途ニ其ノ職ニ斃ル因ニ氏ハ明治十五年九月十一日和歌山縣日高郡ニ生レ性沈

毅ニシテ膽氣アリ忠實ニシテ物ニ拘ヘス頭腦明晰ニシテ殊ニ刑事事務ニ長シ良警察官ナリト遺族ハ實父外三人ナリト

故警務顧問補助員山信安氏

全 工藤光馬氏

故警務顧問補助員山信安、工藤光馬ノ兩氏ハ永春警務顧問分派所勤務中隆熙元年八月十五日同地偵察中約二百名ノ暴徒同所ニ來襲シタルヲ以テ兩氏ハ協力約二時間ニ涉リテ應戰シタルモ衆寡敵セズ勇氣ヲ距ル北方約一里ノ高地ニ退却シタルニ其ノ時既に賊徒四圍ニ在リテ血路ヲ閉ク能ハス該高地ニ於テ力戰奮闘スルコト二時間ニ涉リ彈藥盡キ櫻井補助員先ツ斃レ工藤補助員モ途ニ斃ルニ至レリ因ニ櫻井補助員ハ明治十六年二月二十日熊本縣鹿野郡ニ生レ性敏捷ニシテ品行方正ニ警察官ノ模範ナリシト櫻井補助員ニハ母姉ノ二人工藤補助員ニハ母一人ノ遺族アリト云フ

故警務顧問補助員山崎嘉左衛門氏

故警務顧問補助員山崎嘉左衛門氏ハ隆熙元年八月二十七日午後四時頃暴徒約三百名豊津警務顧問分派所ニ來襲シタルヲ以テ同僚二名ト共ニ防戦ニ努メタルモ途ニ賊ノ包圍スル所トナリ同僚二名ハ其ノ側ヲ脱シタルモ氏ハ途ニ賊彈ニ斃ルニ至レリ因ニ氏ハ明治元年三月二十六日宮城縣仙台南ニ生レ性温厚正實ニシテ職務ニ熱心韓人警察官ノ指導ニ努メ其師表タルニ耻テナル人物ナリシト云フ

故警務顧問補助員遠原榮太郎氏

故警務顧問補助員遠原榮太郎氏ハ隆熙元年九月五日暴徒百餘名ノ襲撃ヲ受ケ夜職一時斷ノ後軍醫處ニテ傷重中不幸ニシテ斃命ニ斃ル因ニ氏ハ明治六年群馬縣利根郡ニ生レ性善良品行端正良警察官ナリト云フ

故警務顧問補助員新井豐太郎氏

故警務顧問補助員新井豐太郎氏ハ隆熙元年九月八日守備兵ト共ニ賊徒搜索ノ爲全羅北道鹿島ニ至リ搜索中逃亡シタル韓兵ト出會シ守備兵ト共ニ交戦大ニ奮闘シタルモ賊ハ岩石其ノ他ノ地物ヲ利用シ狙撃ヲ加ヘ守備兵三名其ノ他日本人二名ト共ニ賊彈ニ中リ遂ニ斃ル

故警務顧問補助員安藤榮三郎氏

故警務顧問補助員安藤榮三郎氏ハ隆熙元年八月二十五日以降安東榮川奉化豐基順興等ノ各所ニ於ケル暴徒ノ鎮撫ニ從事シ同月三十一日未明百餘名ノ暴徒ト戦ヒ越テ九月十日守備隊ト共ニ開慶郡馬蹄嶺ニ於テ暴徒四百餘名ト會戦中來援セル百餘名ノ暴徒ノ爲メ側面攻撃ヲ受ケ勇敢ナル行動ヲ爲シ應戦中不幸賊彈ノ斃ス處トナル因ニ氏ハ文久二年七月二十八日熊本縣熊本市ニ生レ性温厚篤實ニシテ部下ニ信頼セラレ監督補助員トシテ統禦ノ才幹アリ警察官ノ好模範タリシト遺族ハ母妻遺子七人ナリト云フ

故警務顧問補助員猶木嘉平次氏

故警務顧問補助員猶木嘉平次、久保中純祐ノ二氏ハ大邱警務顧問支部ニ勤務シ暴徒討伐ニ從事中隆熙元年九月十一日慶尙北道慶慶ニ於テ頗ル優勢ナル暴徒ト衝突シ直ニ二氏ハ協力應戦セシモ激戦數時間ノ後賊ノ包圍スル處トナリ衆寡不敵包圍ヲ脱スル能ハス挺身奮闘遂ニ賊彈ニ斃ル因ニ猶木補助員ハ明治十二年二月二十八日鹿兒島縣伊佐郡ニ生レ性寡黙沈勇節儉ニシテ奢ラス久保中補助員ハ慶應三年十二月二十八日奈良縣山邊郡ニ生レ性寬厚ニシテ人ト爭ハス部民ノ信頼厚ク共ニ良警察官ナリシト猶木補助員ニハ嚴父久保中補助員ニハ妻子二人ノ遺族アリト云フ

故警務顧問補助員入江壽雄氏

故警務顧問補助員入江壽雄氏ハ竹山郡暴徒強行偵察トシテ隆熙元年九月十四日上司同僚ト共ニ同郡白

岩市場ニ探入セシカ時恰カモ同市場ニ集合シタル暴徒二百五十名ノ一團ト衝突シ奮闘勇戦ノ末數人ノ賊ヲ斃シタルモ遂ニ暴徒ノ爲ニ殺害セララル因ニ氏ハ明治十二年長崎縣南松浦郡ニ生レ性伶俐ニシテ敏捷常ニ勤務ニ精勵シ上司ノ囑望スル人物ナリシト云フ

故警務顧問補助員兼折元一氏

故警務顧問補助員兼折元一氏ハ隆熙元年十月二日午後二時永川分派所ヨリ公務ノ爲永川郡紫陽園道坪洞ニ至リタルニ暴徒一百五十名ト出合シ其ノ襲撃ヲ受ケ極力防戦ニ努メタルモ衆寡敵セズ腹背ニ貫通銃創ヲ受ケ斃ル因ニ氏ハ明治五年四月十一日島根縣八束郡ニ生レ性善良衆人ノ敬慕ヲ受ケ好警察官ナリシト遺族ハ父母及妻ノ外長女一人ナリト云フ

故巡査福島榮太郎氏

全 匹田 章氏

全 渡邊卷次郎氏

故巡査福島榮太郎、匹田章、渡邊卷次郎ノ三氏ハ共ニ隆熙元年十一月一日午前八時關州ヲ發シ利浦方面ノ暴徒偵察ヲ遂ケ更ニ興谷面ニ至リタルニ突然暴徒二百餘名顯ハレ襲撃セラレタルヲ以テ直ニ應戦敵勢ヲ挫キタルモ午後五時ニ至リ彈丸缺乏スル處トナリ遂ニ突撃賊彈ノ爲メニ斃ル、福島巡査ハ明治八年七月五日佐賀縣三養基郡ニ生レ性頗良正直ニシテ精力アリ匹田巡査ハ明治四年五月十二日石川縣河北郡ニ生レ性沈毅剛毅ニシテ勇氣アリ渡邊巡査ハ明治八年二月十五日新潟縣中蒲原郡ニ生レ性頗良ニシテ膽氣アリ共ニ良警察官タリシト福島匹田ノ兩巡査ハ各未亡人一人渡邊巡査ハ養母養子二人ノ遺族アリト云フ

故巡査權次猪之次郎氏

故巡査權次猪之次郎氏ハ隆熙元年十一月十六日午後六時頃興海分派所巡査宿舎ニ暴徒約二百餘名來襲

シタラバ以テ國權ヲ失ヒニ墮ルヨリ應戰中頭部等ニ受傷ヲ受ケ難キ事ヲ期スルニ
十五日岡山縣警務部ニ生レ性温順ニシテ職務ニ忠實良警察官ナリト云フ

故逕査徳永權吉氏

故逕査徳永權吉氏ハ應元元年十一月十九日都内北青郡安坪郡長カ民有銃器提調方ニ關シ銃論シタル
ニ人民ノ反抗ヲ受ケ銃殺セラレ頗ル不穩ノ報ニ接シ上司ト共ニ出張銃器六十八挺ノ購置ヲ了シ
中支坪社厚時嶺ニ於テ暴徒ノ襲撃ヲ受ケ交戰中銃制ヲ被ラテ斃ル因ニ氏ハ明治十三年十二月一日
縣前條郡ニ生レ性活潑ニシテ氣概アリ良警察官ナリト遺族ハ妻子二人ナリト云フ

故逕査森伊太郎氏

故逕査森伊太郎氏ハ慶尙北道長鬐逕査駐在所勤務中陸曆二年一月三日午前七時頃暴徒六十餘名來襲シ
タルヲ以テ同僚ト共ニ防戰ニ勵メタルモ賊ハ巧ニ地物ヲ利用密口ニ猛射シ爲メニ腹郡ニ貫通銃創ヲ受
ケ遂ニ斃ル因ニ氏ハ明治十四年四月十六日長野縣更級郡ニ生レ性活潑ニシテ良警察官ナリト云フ

故逕査波多野和嘉次氏

故逕査波多野和嘉次氏ハ陸曆二年一月二十二日午前九時四十分頃暴徒ハ成平邑内ニ來襲シ成平逕査
駐在所等ヲ攻撃スルヤ同僚ト共ニ急速武裝シ駐在所ヲ棄テ出テ伏射戰シタルニ暴徒ハ無分ノ銃器ヲ
遺棄シテ退却シタルヲ以テ其ノ勢ニ乘シ同僚ト共ニ追襲銃器ヲ兩獲シタル後進ンテ西方裏手高地ニ
在リシ暴徒ト銃火ヲ交ヘツテアラシカ成平郡新裏手土塚ノ内ヨリ狙撃シタル銃丸ハ不幸ニモ口中ニ
中爲ニ貫通銃創ヲ受ケ遂ニ斃ル因ニ氏ハ明治十三年十月十日愛知縣名古屋市ニ生レ性温厚ニシテ寡言
温ノ風アリ職務ニ實忠良警察官ナリト遺族ハ母妻二男二女ナリト云フ

故逕査三隅破竹郎氏

故逕査三隅破竹郎氏ハ暴徒討伐ノ爲漁船ヲ雇ヒ海上延安郡沿岸へ出張陸曆二年四月二十二日午後七時

沈山浦へ上陸セントスルヤ暴徒三百餘名俄然數隻ノ漁船ト陸上ノ巖壁トニヨリ襲撃ナリ暴徒等ヲ捕
ラレタルヲ以テ直ニ勦撃叱呼苦闘奮戦挺身奮闘ニ依リ賊ニ急襲ヲ加ヘ多大ノ損害ヲ與ヘタルモ我隊先
傷キタル爲難ノ操縦自由ナラス遂ニ敵陣前ニ貫通銃創ヲ受ケ斃ル因ニ氏ハ明治十五年六月十日宮崎縣
生レ性温厚正ニシテ寡言實業家ノ模範タリト云フ (以下次號)

○警官講習所設置

従來轉入逕査ノ救養ハ各觀察道所在地ノ警察署ニ於テ施行シ來リシモ日本人逕査ノ救養ニ關シテハ一
定ノ設備ナカシカ今同急其ノ設置計畫熟シ中樞院構内ノ建物ヲ以テ之ニ充用シ目下教室其ノ他ノ設
備ニ必要ナル修理ニ着手進行中ナレハ授業開始ノ期ヲ見ルモ遠キニアラサルヘシ

○警察月報ニ關スル事項

警察月報發刊規程

- 第一條 本報ニハ警察ニ關スル法令規程其ノ他警察上必要ナル事項ヲ掲載シ執務上ノ參考ニ供スルモ
ノトス
- 第二條 本報ニハ毎月一回警務局内ニ於テ發刊ス但シ必要アルトキハ臨時發刊スルコトアルヘシ
- 第三條 本報ニ載稿スヘキ事項ハ概テ左ノ如シ
 - 一 法律、命令、閣令、部令、警務廳令其ノ他職務上必要ナル法令
 - 一 職務上必要ナル就重所令其ノ他日本國ノ法令
 - 一 警察ニ關スル各都大臣ノ訓令及警務廳長ノ訓令、警務局長衛生局長ノ訓達其ノ他警察廳長等
ノ訓令及訓達

一 警察官及之ニシテトナルヘキ事項
 一 警察官更其ノ他重ナル日俸官更ノ叙任辭令
 第四條 本報ハ警察局、警視廳及各道ニ於テ警察ノ職務ニ從事スル諸讀者ニ配付ス
 第五條 諸讀者ハ左ノ區別ニ依リ本報發刊ニ要スル経費ヲ負擔スルモノトス
 諸讀者ハ毎月翌月分ノ経費ヲ前納スルモノトス
 一 勲任官 毎月金一圓
 一 委任官 同 金四十錢
 一 委任官 同 金二十錢
 一 判任官 同 金十錢
 一 判任官及日人通譯 同 金十錢
 一 判任官及日人通譯ニシテ本報ヲ購讀スル者ハ毎月金五錢五厘ヲ納付スルモノトス
 第六條 領收済ノ経費ハ事由ノ如何ニ拘ハラズ之ヲ還付セズ
 第七條 本報發刊ニ關スル事務ヲ處理スル爲メ委員長、委員事務員ヲ置キ委員長、委員ハ左ノ官職ヲ奉
 スル者ヲ以テ之ニ充テ事務員ハ委員長之ヲ囑託ス
 事務事務員ニハ手當ヲ給ス
 一 委員長 警務局長
 一 委員 警務局警務課長、警視廳監官房主理、警察部長、警察署長、警察分署長
 第八條 委員長ハ本報發刊ニ關スル事務ヲ監督ス
 第九條 委員ハ本報ニ掲載スヘキ資料ヲ蒐集シ前月分ヲ翌月五日迄ニ警視廳各道警察部警察署及警察
 分署ニ在リテハ警務局委員ニ警視廳管内警察署警察分署ニ在リテハ警視廳委員ニ送付スヘシ
 第十條 委員ハ各購讀者ノ伴給ヨリ本報ノ経費ヲ控除シ警視廳委員及各道警察部、警察署委員ハ購読

一 金
 内 詳
 様式ノ送金書ヲ調製シ翌月五日迄ニ警務局委員ニ送金スルモノトス
 警視廳所屬警察署委員ニ於テ領收シタル経費ハ同應委員ニ於テ之ヲ取纏メ前項ノ手續ヲナスモノト
 第十一條 各委員ニ於テ経費送金ノ爲メシタル費用ハ領收金ノ内ヨリ之ヲ控除シ支拂証明書ヲ添付ス
 ルモノトス
 第十二條 警務局委員ハ経費出納簿ヲ備ヘ其ノ收支ヲ明カニシ毎年二月末日迄ニ前年度ニ於ケル收支
 決算書ヲ調製シ各委員ニ送付スルモノトス
 陸奥何年何月分警察月報経費送付書

官名	購読部数	一人経費	計	備考
警視	一	四〇〇	四〇〇	
警部	一	二〇〇	二〇〇	
日人通査	二	一〇〇	二〇〇	
日人通査	二	〇五五	一一〇	
日人通査	二	一〇〇	二〇〇	
日人通査	一	一〇〇	一〇〇	

一	〇
二	〇
三	〇
四	〇
五	〇
六	〇
七	〇
八	〇
九	〇
十	〇

本報...
 本年七月九日...
 第六三號ヲ以テ...
 七月ヨリ發刊ノ見込ナル...
 八月分...

本報...
 本報...
 本報...

明治二十二年十二月廿六日

長信子
 長信子

司法者...
 司法者

司法者...
 司法者...
 司法者...

三 學校ノ制定ニ係ル理論及ビ實質科ノ科目並ニ
 教師及ビ其給料

共〇〇〇